

七島藺の製品が できるまで



1 植え付けから約3か月後、人の背丈ほどまで伸びた七島藺を刈り取り。



2 刈り取った七島藺を分割機で2本に割り、乾燥機で8～10時間ほど乾かす。



3 乾燥した七島藺は、半自動織機を使って畳表に。




4 七島藺は工芸品の材料としても利用されている。



研修生の山崎さん夫婦（写真左側）。中央は松原さん



interview



国東高校 教諭（農場主任）
永松 勝也 さん

園芸ビジネス科のバイオ類型を選択する生徒に、七島藺の体験授業を行っています。授業では、植え付け、刈り取り、乾燥から工芸品製作までの一連の作業を体験し、七島藺に関する学習に取り組んでいます。

七島藺は、国東市だけで栽培されている貴重な植物です。そして、七島藺を扱う授業をしているのは、全国で国東高校だけ。わが校の自慢です。七島藺の体験授業を通じて、生徒たちに、地元の誇りである世界農業遺産について学んでほしいと思っています。

今年の七島藺の作付面積は約18アール。七島藺の植え付けは機械化できないので、昔ながらの手植えです。今年で28回目の植え付けですが、体力的にきつくなってきたので、栽培面積を少し減らしました。

今年は大阪より移住してきた山崎さん夫婦を、七島藺の研修生として迎え入れました。七島藺を後世に残していくためには、後継者の育成が何より大切。七島藺という国東市にしかない伝統産業の継承に、力を入れていきたいです。

interview



市内最大の作付面積
松原 正 さん
（安岐町塩屋）



「なしそげえ元気かつち。そりゃあ、好きなことをしよるからじゃろ。田んぼに行くと元気になる。好きじゃから、やめん。人生、七島藺」

そう言つて、古庄さんは七島藺を植えながら、満面の笑みを見せてくれた。

「七島藺が好きなんじゃ。植えちから毎日、家から田んぼを見よる。七島藺の成長を見るのが楽しいわい。生まれた時から、七島藺に囲まれち育つちきた。こん匂いが良いのう」

現在、市内の七島藺農家は7件（令和2年3月31日時点）。市内最高齢の七島藺農家が、古庄さんだ。親も七島藺農家だったため、物心ついた時から七島藺は古庄さんの生活の一部だった。80歳を超えた今でも、毎年、七島藺を植える季節の到来が待ち遠しいという。

5月13日、安岐町糸永。古庄毅男さんが、とても84歳とは思えない軽快な足取りで、自宅隣の田んぼに向かつて行った。田んぼに入ると、素早い手つきで次々と七島藺の苗を植えていく。

人生、七島藺



伝え残したい国東の宝

七島藺

—しちとうい—